

都身連自動車部会研修会報告

平成28年7月30日(土) 13時30分～15時30分

都障害者福祉会館

第一部 講師/森祐司日身連常務理事兼務事務局長

「障害者制度改革と障害者差別解消法施行について」

第二部 講師/小西慶一都身連会長「難病について」

森講師は、先に発生した津久井やまゆり園の事件に触れ、講演に先駆け、施設で刺殺された方々のご冥福や重軽傷をおった方々の一日も早い回復のために参加者全員に、1分間の黙とうを提案し、悼んだ。

障害者制度に対する歴史的意義として、昭和23年のヘレンケラー来日、昭和25年の身体障害者福祉法施行などの変革を、また、リオデジャネイロオリンピック、パラリンピックを控え、昭和39年の東京パラリンピック開催についてつぎのように話された。

東京で開催されたパラリンピックは、11月8日から7日間開催され、8競技22ヶ国369名の選手が参加。内日本選手は53名。車いす使用の身障大会は第一部国際大会、国内大会は第二部で視覚、聴覚などすべての身障者が参加した競技会を実施し、この競技会は全国スポーツ大会として現在も引き継がれていること。また、パラリンピックは、オリンピックと違い、資金不足だったが日本バーテンダー協会などの協力でなんとか資金が調達できたことや、日身連ではパラの成功を祈願し富士登山を行っていたことなどを話された。

質疑応答の後、川田部長の閉会挨拶で散開。

参加者25名